

# ゆりいか通信

第8号

令和6年12月



## 「不登校の子どものカリキュラム？」

「学校」というところは、メリットもデメリットもありますが、メリットの一つとして子どもが社会に飛び立つまでに必要な知識をスキルをワンストップで習得するカリキュラムがあるというところでしよう。このカリキュラムというものは教科学習だけを指しているのではなく、特別活動や自立活動など学校生活の細部にわたってどの活動一つとってもすべて子どもの育成に必要なだと思っで行われているものです。

そこで、自分の子ども無理に学校に行かさないで、こうと考えるからには、不登校の子どもを無理に学校に来させない代わりに、それぞれスキルをどのタイミングでどのように身につけさせようかと考えるようになりまし。まず「自分を大切に」ということが根幹です。学校に行っているかどうか、進路の見通しがあるかどうか、などの物差しで測るのではなく、子どもの今の姿そのままをありのままに受け入れられる環境を整えること、それが最初

の「カリキュラム」だと考えています。子どもが不登校になつたときに保護者との面談を重視していたのはそのためです。保護者が不安なままではお子さんの「ありのまま」を受け入れることが難しいからです。けれど、それがなければ何も始まりません。地面のない所に家を建てようとしているようなものです。子どもが落ち着いてくるようになってからようやく、それが必要となるようなスキルや知識、経験を身につけるようになるにすぎません。そこにつなげることができず、そのお子さんにとって足りない内容は何か、今どんなチャンスを提供するのが良いのか、どんなことなら心が動きそうなのかというところを見極めながら次の動きを一緒に考えていくようにしています。次回「学校」以外の場面で育とうとしている子どもに対して学校教職員ができることは何かについて考えてみたいと思います。

恩庄 香織

# Our Activities



## ぶらっと ギャザリング企画

ぶらっとぶらのメンバーとボランティアスタッフがのんびり集まって一緒にわいわいする日があってもよいのではないかと、月に一度集まる日を設定してみることになりました。今月はお試しで行って、やり方や名称などのアイデアを出してみようかと思っています。日頃個別に出会ったり関わったりすることが多いですが、集まったときにどんな風になるか楽しみです。

## 11月のフラツペ

### 【防災・減災】

11月17日1時半から、「防災について考えよう」というテーマで勉強会を行いました。

どの高校でも取り上げて学んでいるテーマというわけではありませんが、自分や大切な人の命を守るためにはぜひとも知ってほしい内容だろうというところで今回防災をとりあげてみることにしました。

避難所と広域避難場所との違いや避難に向けての行動や日頃の準備など、なんとなく考えていても改めて思い返すときちんとは分かっていないなという事柄がたくさんあることに気付きました。今回の学びをきっかけに家でも防災について話をしてみようという話になりました。

## ゆりいか勉強会

12月23日月曜日、教職員および若者支援者を対象に勉強会を行います。ゆりいか研究会のアドバイザーもしていただいている洛和会音羽病院の中島陽大先生にお越しいただき「起立性調節障害」についてお話していただくことになっています。

**参加費 1000円**

教職員・若者支援者対象  
**ゆりいか勉強会**  
「起立性調節障害」の子どもたち

講演会 12月23日(月) 14:00~15:30  
洛和会 音羽病院 公認心理師・臨床心理士  
中島陽大先生

起立性調節障害は自律神経の調整の乱れによって引き起こされ、朝が起きられない、目が覚めても頭痛や腰痛で布団から出られない、午前中調子が悪いといった症状があらわれる病気です。思春期の子どもに多く見られますが、特に高校生では午前中の授業に出られないことから進路に大きな影響があります。より適切な対応ができるよう一緒に学びを深めていきましょう。

交流会 15:30~16:30  
【希望者】ざっくばらんにしゃべり

場所 **こりす西陣**  
(京都市上京区藤木町725-5)

ウェブサイトからお申込みください。

詳細についてはゆりいか研究会のサイトをご覧ください。

ゆりいか研究会では、不登校について学びを深めたい先生方にむけて個別にお話もしています。関心のある方はお気軽にご連絡ください。

# Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（支援者一覧・順不同）

多喜誠子さま、杉本さま、宮坂 修平さま他 クラウドファンディングおよび  
その他の形での寄付をしていただき、ありがとうございました。

なお、campfire community において、クラウドファンディングを行って  
おります。また直接の寄付も受け付けております。どうぞお声がけください。



## 今月のコラム

今月は、このニューズレターで連載している小説『金鶏鳥』の作者である  
宮美遊さんから寄稿していただきました。

### 「金鶏鳥」という作品

私が「金鶏鳥」を書くことと書いたのは  
今の時代には想像も付かない出来事が世の中  
から忘れ去られてしまうのは余りにも惜しい  
と感じたからです。そしてなによりも、父が  
自伝にも書いていたように、生きづらい今の  
世の中を生き抜く今の人たちにとってお役に  
立つことがあればと思ったからです。父をモ  
デルにした信男の生き方をたどることで何か  
参考になればという想いを込めて綴っていま  
す。

皆さんもご存じの通り、当時の生活は今と  
は全く異なったものでした。例えば今の様な  
洋服や靴は一般的では無く、和服の着物に帯  
を締めて生活をしていました。精米について  
も今の様な電気式モーターが無く、水力によ  
る水車で行っていました。夜中でも人が見張  
って時折溜まった糠を取り除かねばなりませ  
んでした。また、汽車の客車の様子も今とは  
ずいぶん異なっており、車内で席を移動する  
時は、履物を脱いで席をまたがなければなり  
ませんでした。生活の中のどれひとつを取っ  
ても実に不便です。そんな明治時代の生活が  
昭和に入るまでの数年間で大きく変わって  
きました。テクノロジーの進化に伴って生活  
様式が大きく変わり、数年後の様子は想像も  
できなかつただろうと思います。それは、先  
行き不透明で数年後の想像もできない現代の  
生活にも通じる場所があるに違いありません。  
経済面から見てみても、その苦勞は今の比

ではありません。折角お金をためたとしても  
戦時中は使えなくなり紙切れ同然となって  
ました。また戦後のインフレは現代では想像  
を絶するような状態で、朝と夕方では価格が倍  
になっているような感覚だったそうです。  
さらに、当時は今とは法律も慣習も大きく  
異なっていました。今となつては当たり前  
の権利さえ、まだ人々にいきわたっていない  
代でした。父は苦しい生活に何度も死にたく  
なつたそうです。けれどその度に思い直し、  
また父を支えるような出来事や人々との出  
会いがあつてなんとか人生を紡いでいくこと  
ができました。もしその時父が命を絶つて  
いたら今の私は居ません。また、その時生  
きながら覚えてきたからこそ、子にも孫にも、さら  
には曾孫にまでも会えたのです。  
タイトルにつけた『金鶏鳥』は想像上の生  
き物で、フェニックスとも呼ばれています。  
信男の母オヒサの教えとして出てくる『金鶏  
鳥』の逸話とは別に、不死鳥としての側面も  
持っています。信男は何度も死を決断するよ  
うな状況に追い込まれながらも、燃え上がる  
炎の中で新たな命と共に飛び立つ不死鳥のよ  
うに、生活をリセットして次の人生を歩きは  
じめます。「死んだと思えば」ゼロから生活  
を築いていくことができます。そんな信男の  
生き方が、『詰んだ』とつぶやく若者たちに  
勇気を与えられればと思っています。

宮美遊





# 金鶏鳥

宮美遊

## 幼少期（七）

しばらくは息を詰めて歩いてい  
たが、やがてまたみんな広がって  
歩き始めた。歩いてても歩いても、  
ホタルは飛んでいない。つまらな  
くなった竜太は、また後ろを向い  
て話しかけた。

「昨日叔父やんが言うってたけ  
ど、ここら辺で子取りが出るんや  
て」

「にいちゃん、子取りって何？」  
と信男が辰郎に尋ねた。

「にいちゃんも知らん」

辰郎がそう答えると、信男は振り  
返って聞いた。

「しげちゃんは？」

「知らん」

「オレも見た事ない」

茂と修が答えた。すると、二人の  
後ろから敬が

「聞いた事ある。子取りは大男  
で、背中に大きな袋を持つとるん  
やる？ その袋に子供を入れて、  
拐（さら）っていくんや。それで  
子取りって言うんやろ？」

と声を上げた。さらに竜太も脅す  
ように、

「そうや、拐った子供は怖い人の  
所へ売り飛ばされて、お母（かあ）  
にも会えやんのやぞ！」

と言うと他の子供達は、怖くなって  
シユンとした。茂は修に、不安げに  
囁いた。

「ホンマに、子取りっておるんかな  
あ」

「どうかなあー」

信男も、

「子取り、来んかったらええのにな  
あ」

とつぶやく。

「にいちゃんがついとるから、大丈  
夫や」

辰郎は繋いだ手を強く握りしめた。  
雲が月にかかり、辺りはさらに暗く  
なった。子どもたちは一層心細く、  
怖くなってきた。

絵：落葉画廊

## 編集後記

あつという間に年の瀬が近づい  
てきました。4月から新たなプロ  
ジェクトを始め、どうなることか  
と一歩一歩試行錯誤しながらの毎  
日でした。ドキドキハラハラしな  
がらもたくさんの方たちの温かい  
ご支援とご協力でここまで来られ  
ました。年末のご挨拶にはまだ少  
し早いかもしれませんが、ゆりい  
か研究会関係者を代表してお礼を  
申し上げます。来年も何卒ご支援  
ご協力の程よろしくお願いいたし  
ます。

（恩庄か）

## おしらせ

★フラツペ

今月の勉強会は12月15日  
午後に行います。今回は人権  
について考えてみたいと思っ  
ています。お気軽にご参加くだ  
さい。

1月の勉強会は19日です。  
いずれも詳細、申し込みはゆ  
りいか研究会のサイトをご覧  
ください。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の  
時代を乗り切った実在の人物をモデルと  
した小説です。先行き不透明な現代を生  
きるヒントが得られるような気がしま  
す。ぜひこれからも楽しんでご一読くだ  
さい。これまでの話は研究会サイトの  
「過去のニュースレター」でお読みいた  
できます。